



伊藤 春美 議員



ヤングケアラー支援体制強化について

問 ヤングケアラーの問題には、児童虐待とつながっているケースもある。言葉の暴力等、心理的虐待を受け続けることで大事なことが話せず、周りに相談するという気力も失っている場合もある。先進市では、配食サービスで信頼関係を築きスムーズにいついているところもある。旭市でも配食サービスや家事支援に予算はつけられないか。

答 国は来年度、ヤングケアラー支援事業として、市町村がフォローアップする体制を整備するための費用やヤングケアラー支援体制強化事業として、コーディネーターの配置やオンラインサロンの設置、運営等に対する費用の補助メニューを公表している。配食サービスや家事支援については、今後の相談ケースに応じて先進地を調査研究したい。

問 一般的にヤングケアラーは18歳までと言われているが、

それ以降も家族の障がいや病気で介護を継続するヤングケアラーへの支援はあるか。

答 子育て支援課内の家庭児童相談室では、対象者を18歳までとしているが、年齢にかかわらず、相談があった場合には介護サービスや障がいサービス等、内容に合った支援を関係各課や関係機関につなげていきたい。

ごみの分別や出し忘れ防止に役立つアプリの導入を

問 ごみの出し方や収集日、分別方法が簡単に確認できる携帯アプリ「さんあくる」の導入はできないか伺う。

答 ごみ分別や収集日の案内に特化したアプリは導入していないが、公式LINEを活用した案内をしている。アプリの導入は、コストと有用性を比較しながら検討したい。



その他の質問事項

○骨髄移植ドナー最終同意後中止者への助成

旭市の消防・防災力の強化について

問 旭市の防災対策の現状と課題を伺う。

答 現状は、津波対策の避難道路や避難タワーの建設。ハザードマップの作成と修正。避難者5000人を見込んだ水や食料を市内5カ所の倉庫に保管。課題は、公助で対応できない面を自

問 令和6年出初式の総括と課題を伺う。

答 コロナ禍以前と同規模で4年ぶりに屋外で開催。リハールや放水を省略し、拘束時間の短縮を図った。表彰式で体調不良者の事案発生があったため次第や時間配分を検討。

問 防災無線の役割と運用の在り方について伺う。

答 災害対策や行政事務に関し、円滑な通信の確保を図るために設置。発信情報は、災害情報・緊急事項・行政の普及・啓発、市民の協力が必要とする事項。

居住環境の充実について

問 都市計画見直しの素案説明会開催の課題を伺う。

答 広報だけでなくSNS等を活用し周知したが、参加人数が少なかったのが課題。

問 都市計画税の市の見解を伺う。

答 都市計画税は、都市計画事業、施設整備に要する費用に充てるための目的税。区域の見直しと課税区域を調査研究中。

学校再編計画の策定について

問 (仮称)干潟地域小学校の学校再編代表者会議を通して、今後の課題等について伺う。

答 地域検討会議を踏まえ、代表者会議で統合の諮問に対して審議。第2回会議で3校統合に合意。今後は統合場所、時期、学校名等を審議。課題は統合校の位置についての最終的な合意形成を図ること。各地域の人口の偏り、児童・生徒数の減少と差が生じている中、公平な教育環境を整えることが使命。持続可能で地域に根づいた新しい学校、夢のある学校づくり。生きる力、郷土を愛する心を育める教育環境の充実。



伊場 哲也 議員

